

1 事業名

令和元年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「体験活動支援セミナー ～ドキドキ わくわく ボランティア・夏～」

2 趣 旨（事業の目的）

小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。

3 期 日 令和元年6月22日（土）～23日（日）

4 参加者 52名（高校生16名，大学生34名，専門学校生2名）

5 後 援 岩手県教育委員会

6 連携・協力 盛岡大学

7 内 容

（1）日程（太枠で囲まれている部分は、小学生が参加し、実際に活動を支援する部分）

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
6/22 (土)				参加者受付	講義	活動内容についての打合わせ	昼食	小学生受付	はじめの会	ちゃれんじザフレンドリーゲーム！	ちゃれんじザドキドキディナー！	夕食	ちゃれんじザわくわくナイトハイク！	入浴	就寝指導	ふりかえり	就寝準備	就寝

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
6/23 (日)	起床	洗面・準備	つどい	朝食	退所点検	ちゃれんじザオリジナル焼板クラフト！	昼食	片付け	アンケート記入	おわりの会	小学生解散	演習	参加者解散

（2）指導者

国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	工藤 祐 幸
	企画指導専門職	松本 博 路
	事業推進係	日比野 功 宜
指導補助	法人ボランティア	13名

（3）企画のポイント

法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、「テンパークちゃれんじくらぶ・夏」の企画・運営体制を構築した。その際、セミナー参加者に対する支援を行うことができるように法人ボランティアの4名を統括リーダーとして配置した。また、セミナー参加者は各班のグループレADERとして子供たちに寄り添い、一緒に活動しながら体験的に学ぶことができるようにプログラムを構成した。

プログラムについては、開催時期の天候が不安定なため、ナイトハイクの雨天プログラムを二段構えで準備し（館内ナイトハイク、班ごとの振り返り）、混乱なく対応できるように配慮した。日程についても両事業の参加者が十分に関わることができるとともに、天候等によるプログラム変更にも柔軟に対応できるようにゆとりをもって設定した。

さらに、セミナー参加者が見通しをもって子供たちの活動を支援することができるように、野外炊事のメニューは5月末に実施したボランティア養成・研修事業「How To ボランティア」での野外炊事のメニュー（焼きそば、お好み焼き）を取り入れた。

（4）広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシと共に岩手県内の大学・短期大学、専修学校、高等学校、報道機関に送付した。

（5）運営のポイント

子供たちを迎え入れることに備えて、1日目の午前中にセミナー参加者に対するアイスブレイクも交えながら、活動の支援に必要な知識や技能についての研修を行った。「事業運営並びに活動支援についての心構え」では、セミナー参加者がボランティア活動に必要な基本的スキルについて、岩手山が独自で作成したボランティアガイドブックを活用して講義を行った。さらに、活動内容の打合せにおいて、テンパークちゃれんじくらぶにおける各プログラムの活動計画書を基にして具体的な場面を想定した留意点等を共通理解することで、支援の仕方についての具体的なイメージをもつことができるように工夫した。

また、アイスブレイク等の体験活動を、法人ボランティアがコーディネートすることにより、近い世代の若者が活躍する姿を見て、憧れを抱くような事業展開を心がけた。さらに、事業の企画運営についての事前説明及び実際の運営を法人ボランティアが担当することで、法人ボランティアとセミナー参加者が主体となって活動に取り組めるように心がけた。

一方で、事業のリスクマネジメントの視点から階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、スライドショー撮影ミーティング、生活班ミーティングなど役割を明確にした組織運営体制を敷き、安全に留意したプログラム展開を実践した。具体的には、法人ボランティア13名で担当する班を分担し、セミナー参加者と一緒に子供たちの健康調査票を基にして健康面や心理面、保護者からの特記事項等を把握することで対象者理解を深め、受け入れの準備を整えた。組織構築の中で、参加した子供たちが楽しく安全に過ごすことができるように、子供たち6～7人の14班にセミナー参加者を3～4名ずつグループリーダーとして配置するとともに、統括リーダーがフォローできる体制を敷くことで、子供との関わり方等について相談したりアドバイスしたりできるようにした。（補足資料参照）

8 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、初めは不安もあったが、グループリーダーとして子供と深く関わり、真剣に向き合う中で、子供たちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、体験から多くのことを学んでいた。そして、子供たちに積極的に声がけをする中で、子供たちからも話しかけられるようになって、次第に自信をもって子供たちと関わるができるようになるなど相乗効果も見られた。参加者のアンケートからは「今回の実習では、子供たちと一緒に生活すること、教えることの大変さを実感しました。また、子供たちと関わる中で、教え方や関わり方について身をもって知ることができたのでよかったです。」「周りは小学生や大学生ばかりで不安が大きかったが、いろいろな活動をするうちにお互い仲良くできてとても楽しかったし、うれしかったです。将来

の夢にも役立てたいと思いました。」「今回、初めてボランティアに参加したのですが、すごく楽しかったので大学生になってもボランティアに参加したいと思います。」という声も聞かれ、参加者自身が自分の変容を認めることができ、次の活動への意欲付けになった。体験活動支援セミナーを入口とした、法人ボランティアの拡充も大いに期待できると思われる。

9 今後の課題

参加者が、グループリーダーとして子供と関わる中で体験活動の支援に必要なスキルを高めていくことができるように、法人ボランティアによる具体的な活動支援の仕方や実演、進行場面での補足説明を行った。補足説明の中で参加する子供たちをイメージすることができるように、具体的な情報を提供したことで、実際の活動でも意識して活動支援に取り組むことができていた。しかし、今後は、組織運営体制における各担当の役割を共通理解する場を設け、同じ方向性をもって運営に当たることで、法人ボランティアとセミナー参加者がより主体となって活動に取り組むことができるとともに、プログラム変更に対応できるようにしていきたい。



統括リーダーを交えた活動内容と参加児童の情報共有



ちゃれんじ ザ ドキドキディナー（野外炊事）



ちゃれんじ ザ オリジナル焼板クラフト（創作活動）

【補足資料】 テンパークちゃれんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

